

消防組合の沿革

昭和			
44.	3.	27	東児湯5ヶ町村総務課長、消防主任者合同会議において県消防防災課より広域消防組合結成について説明
	5.	19	郡内関係町村会議の席上、県消防防災課より広域消防組合について説明
	7.	1	東児湯関係5ヶ町村長、消防団長、消防主任者合同協議会を開催、県係官の出席を求め、広域消防について説明を受ける。
	7.	1	各町村助役及び消防主任者による調査委員会を設ける。
	7.	10	第1回調査委員会開催 第2回(7.24) 第3回(8.7)
	8.	24	調査委員会による先進地視察を実施、千葉県小見川町外2町消防組合、佐原市外5町消防組合、高知県香南消防組合、徳島県美馬西部消防組合を視察する。
	12.	23	第1回関係町村長協議会
45.	3.	17	第2回関係町村長協議会 各町村間の合意が整い3月の議会にそれぞれ組合規約を提案し議決された。
	4.	1	政令指定を受ける。
	5.	30	一部事務組合の設立許可・組合設置
	7.	23	関係5町村長、議会議長、議会総務委員長、消防団長各1名合計20名をもって宮崎県東児湯消防組合議会を構成、議長・副議長選出、管理者に高鍋町長、岩村一郎氏選任
	8.	20	宮崎県東児湯消防組合議会第2回臨時会開催、組合助役、組合収入役、監査委員の選任、諸条例の制定、昭和45年度歳入歳出予算可決、職員定数条例定員消防吏員70名、事務吏員2名となる。
	9.	19	第1回消防士採用試験実施
	10.	1	宮崎県東児湯消防組合消防本部消防署発足
	10.	6	元高鍋町消防団本部庁舎を東児湯消防組合消防本部仮庁舎として借用
	10.	14	消防長に丸田元一氏就任
	10.	15	職員14名採用
	11.	1	高鍋町から職員3名身分移管し、職員数17名となる。
	12.	1	救急自動車(A級 トヨタ)1台購入、本署に配置
	12.	15	救急業務を開始する。
	12.	15	職員1名採用、職員数18名となる。
46.	1.	5	都農分遣所を都農町役場庁舎3階と2階の一部を仮庁舎とし借用、職員7名で業務を開始する。
	1.	5	救急自動車(B級 日産)を日本自動車工業会から寄贈、都農分遣所に配置
	3.	28	水槽付消防ポンプ車(1-B型 いすゞ)2台購入、本署及び都農分遣所に配置
	4.	1	職員25名採用、職員数43名となる。
	6.	25	都農分遣所新庁舎建設落成、新庁舎に移転
	12.	22	水槽付消防ポンプ車(1-B型 いすゞ)を購入、川南分遣所に配置予定

47.	1. 25	水槽付消防ポンプ車(1-B型 いすゞ)を購入、新富分遣所に配置予定
	3. 15	消防本部(署)庁舎落成、新庁舎に移転
	3. 23	指令車を購入、本部に配置、救急車(B級 日産)を購入、救急車(2B型トヨタ)日本損害保険協会より寄贈、川南分遣所に配置予定
	4. 1	消防本部(署)開庁式を行う。 職員14名採用、職員数57名となる。
	4. 7	新富・川南分遣所新庁舎落成開設、水槽付消防ポンプ自動車、救急車各1台を配置、職員各10名で業務を開始する。
	7. 1	職員1名採用、職員数58名となる。
	12. 9	消防ポンプ車(A3級 日産)を購入、本署に配置
48.	3. 30	木城分遣所新庁舎落成、水槽付消防ポンプ車(1-B型 日産)を購入、木城分遣所に配置予定
	4. 1	木城村町制施行
	4. 1	職員7名採用、職員数65名となる。 木城分遣所開設、水槽付消防ポンプ自動車配置、職員7名で業務を開始
	4. 12	組合規約一部改正(木城村町制施行に伴うもの)
	6. 1	宮崎県東児湯消防組合火災予防条例公布
	10. 1	消防本部に総務課、消防課の2課を設置
	10. 1	職員1名採用、職員数66名となる。
49.	3. 3	宮崎地方気象台より気象観測器具一式を設置
51.	3. 31	査察車を購入、消防課に配置
	4. 1	職員6名採用、職員数72名となる。
	7. 31	職員1名退職、職員数71名となる。
	10. 22	消防組合収入役 山本正直氏退職、後任に岩切正美氏就任
52.	3. 15	新富分遣所庁舎の防音冷暖房工事完了
	4. 1	職員1名採用、職員数72名となる。
	6. 10	救助技術訓練塔を建設
	8. 21	危険物査察車を購入、消防課に配置
	10. 1	消防本部の消防課を警防課と予防課に分課する。
	11. 5	職員定数条例を改正し定数77名(消防吏員75名、事務吏員2名)となる。
	11. 29	救助工作車を購入、本署に配置
	12. 2	消防本部車庫を建設
	12. 20	消防組合助役 河野愛二氏退職
	12. 23	消防長 丸田元一氏退職、高鍋町助役並びに消防組合助役に就任
53.	1. 24	消防組合管理者 岩村一郎氏退職、消防組合助役が職務代行する。
	2. 17	本部(本署)庁舎に自家発電設備(35kVA)を設置
	3. 1	救急車(2B型 日産)を購入、本署に配置(更新)
	3. 10	組合管理者に高鍋町長 渋谷清明氏就任
	4. 1	消防長に児玉実秀氏就任(新富町から出向)
	4. 1	職員4名採用、職員数76名となる。

53.	6.	19	消防組合助役 丸田元一氏退職
	7.	28	九州地区消防救助技術指導会(大分市) 初参加(12名出場)
	8.	29	救急車(2B型 日産) 日本防火協会より寄贈、新富分遣所に配置(更新)
	11.	2	救急車(2B型 日産)を購入、都農分遣所に配置(更新)
	12.	26	職員定数条例を改正し定数81名(消防吏員79名、事務吏員2名)となる。
54.	2.	7	全国消防長会九州支部消防職員駅伝大会出場
	3.	28	本部(本署)庁舎を増築併せて防音改造工事
	4.	1	職員4名採用、職員数80名となる。
	10.	9	安全運転管理優良事業所として、高鍋警察署長、高鍋地区交通安全協会会長表彰を受賞する。
55.	3.	5	救急車(2B型 トヨタ)を購入、川南分遣所に配置(更新)
	4.	1	東児湯少年婦人防火委員会を結成、初代会長に寺原正徳氏が就任
	6.	28	アスナロ消防子供会が結成される。(都農町)
	7.	4	指令車を購入、本部に配置
	9.	1	川南商工会婦人防火クラブが結成される。(川南町)
	10.	17	救助工作車を高鍋信用金庫より寄贈、しらゆり号と称して本署に配置(更新)
	10.	30	消防組合発足10周年記念式典開催
	12.	15	水槽付消防ポンプ車(Ⅱ型 三菱)を購入、木城分遣所に配置(更新)
	12.	22	水槽付消防ポンプ車(Ⅱ型 日野)を購入、本署に配置(更新)
	12.	27	職員定数条例を改正し定数85名(消防吏員83名、事務吏員2名)となる。
56.	5.	1	職員4名採用、職員数84名となる。
	12.	24	水槽付消防ポンプ車(Ⅱ型 日野)を購入、新富分遣所に配置(更新)
57.	3.	4	消防組合管理者 渋谷清明氏退職、消防組合助役が職務代行する。
	3.	8	組合管理者に高鍋町長 吉本盛光氏就任
	3.	31	職員1名退職、職員数83名となる。
	4.	19	救急車(2B型 トヨタ)2台が宮崎県共済農業協同組合連合会より寄贈、本署及び都農分遣所に配置(更新)
	5.	1	職員1名採用、職員数84名となる。
	5.	1	消防組合助役 河野愛二氏退職
	5.	20	はやぶさ少年消防クラブが結成される。(新富町)
	5.	25	中之又婦人防火クラブが結成される。(木城町)
	6.	12	春日婦人防火クラブが結成される。(新富町)
	6.	14	消防組合助役に黒木鎮夫氏就任
	11.	1	各分遣所に所長を配置
	11.	28	本部庁舎屋上に書庫を増設
58.	1.	29	水槽付消防ポンプ車(Ⅱ型 日野)2台購入、川南及び都農分遣所に配置(更新)
	3.	31	職員1名退職、職員数83名となる。
	4.	30	消防長 児玉実秀氏新富町へ復職、職員数82名となる。
58.	5.	1	消防組合助役 黒木鎮夫氏消防長事務取扱となる。
	5.	1	職員1名採用、職員数83名となる。

58.	6.	1	消防長に 河野信夫氏就任	
	8.	23	潮少年消防クラブが結成される。(高鍋町)	
	9.	4	宮崎県赤十字救急法競技大会で優勝	
59.	2.	16	救助工作車(Ⅱ型 いすゞ)を購入、本署に配置(更新)	
	3.	31	消防組合助役 黒木鎮夫氏退職	
	5.	1	消防組合助役に 小松俊一郎氏就任	
	8.	27	救急車(2B型 日産)日本防火協会より寄贈、川南分遣所に配置(更新)	
	10.	22	査察車を購入、予防課に配置(更新)	
	12.	21	消防組合収入役 岩切正美氏退職	
	12.	22	消防組合収入役に 蓑毛秀大氏就任	
	4.	1	職員1名採用、職員数84名となる。	
11.	1.	1	都農町婦人防火クラブが結成される。	
61.	1.	31	指令装置及び電話の整備	
	3.	4	組合管理者高鍋町長 吉本盛光氏退職	
	3.	5	消防組合助役 小松俊一郎氏退職	
	3.	7	組合管理者に高鍋町長 臼杵直孝氏就任	
	3.	7	給料表を「等級」から「級」制度に改正	
	4.	18	救急車(2B型 トヨタ)2台が宮崎県共済農業共同組合連合会より寄贈、本署に配置(更新)	
	5.	7	事務連絡車を購入、総務課に配置(更新)	
	6.	19	防災指導車を購入、警防課に配置(更新)	
	7.	18	消防組合助役に 沼熊夫氏就任	
	12.	19	救急車(2B型 トヨタ)を購入、新富分遣所に配置(更新)	
62.	2.	10	沼助役が消防長事務取扱となる。(消防長病気休職)	
	2.	19	組合規約を改正する。(組合議員10名 副管理者制度を導入)	
	4.	1	副管理者に都農町長 永友敬通氏、川南町長 黒木修氏、木城町長、鶴田国利氏、新富町長 吉田良治氏及び高鍋町助役 沼熊夫氏就任	
	5.	10	消防長に 河野義雄氏就任	
	9.	22	救急車(2B型 日産)を社団法人日本損害保険協会より寄贈、都農分遣所に配置(更新)	
	9.	27	副管理者に都農町長 土工千志夫氏就任	
	12.	24	消防組合負担金条例改正	
63.	4.	30	職員1名退職、職員数83名となる。	
	12.	19	消防組合収入役 蓑毛秀大氏退職	
64.	1.	7	昭和天皇崩御に伴い、年号が「平成」となる。	
平成				
	1.	4.	1	消防組合収入役に森正廣氏就任
	4.	1	1	東児湯少年婦人防火委員会、二代目会長にはやぶさ少年消防クラブ幹事長、播本博俊氏就任
	4.	1	1	機構改革に伴い、職員5名を構成町に派遣、職員数78名となる。

1.	4.	1	予防課と警防課を統合し消防課となる。
2.	3.	31	消防長 河野義雄氏が退職、職員数77名となる。
	3.	31	構成町派遣職員3名が構成町に身分移管する。
	4.	1	消防長に 河野信夫氏就任
	4.	1	職員2名採用、職員数79名となる。
	5.	8	高城町婦人防火クラブが結成される。(木城町)
11.	20		消防組合発足20周年記念式典開催
12.	5		職員1名死亡退職、職員数78名となる。
3.	2.	14	救急車(2B型 いすゞ)を社団法人日本自動車工業会より寄贈、川南分遣所に配置(更新)
	3.	31	構成町派遣職員1名が構成町に身分移管する。
	4.	1	消防無線及び119番の集中管理により、消防課を警防通信課と予防課に分課する。
	7.	1	機構改革に伴い、職員5名を構成町に派遣、職員数73名となる。
	7.	15	通浜婦人防火クラブが結成される。(川南町)
10.	18		第13回幼年消防全国大会(宮崎市)に管内園児110名参加
4.	1.	1	パソコンを導入し業務を開始する。
	2.	19	水槽付消防ポンプ車(Ⅱ型 日野)を購入、本署に配置(更新)
	3.	31	構成町派遣職員3名が構成町に身分移管する。
	4.	1	職員2名採用、職員数75名となる。
	4.	1	東児湯少年婦人防火委員会、三代目会長に潮少年消防クラブ幹事長、黒木正建氏就任
	4.	20	沼副管理者が消防長事務取扱となる。(消防長病気休職)
	8.	31	職員1名退職、職員数74名となる。
5.	3.	11	救急車(2B型 トヨタ)が社団法人日本自動車工業会より寄贈、新富分遣所に配置(更新)
	3.	25	救助訓練塔改修整備
	3.	31	構成町派遣職員3名が構成町に身分移管する。
	3.	31	職員1名退職、職員数73名となる。
	4.	1	職員2名採用、職員数75名となる。
	4.	18	消防組合管理者に 木城町長 黒木傳氏就任、副管理者に高鍋町町白杵直孝氏及び木城町助役 小嶋輝弘氏就任
	4.	18	消防組合収入役に木城町収入役 深水郁夫氏就任
	5.	26	高鍋町において宮崎県総合防災訓練が実施される。
	7.	15	九州地区消防救助技術指導会(大分県)4名出場、個人1名、団体1チーム入賞
	11.	18	自治体消防40周年大会に2名参加。(東京都)
6.	3.	23	本署仮眠室、食堂改修整備
	3.	31	職員1名退職、職員数74名となる。
	4.	1	消防長に稲田三千男氏就任(宮崎県警察本部から出向)職員数75名となる。

6.	4.	1	職員5名採用、職員数80名となる。
	7.	1	「応急手当の普及啓発の推進に関する規則」を制定する。
	7.	14	九州地区消防救助技術指導会(沖縄県)6名参加、個人1名、団体1チーム入賞
	9.	4	高鍋町内繁華街において「第1回救急フェア」を実施する。
	9.	8	第1回「応急手当普通救命講習会」を行い9名に修了証を交付する。
7.	3.	10	指令車を購入、本部に配置(更新)
	3.	16	水槽付消防ポンプ車(Ⅱ型 日野)を購入、木城分遣所に配置(更新)
	3.	26	比木婦人防火クラブが結成される。(木城町)
	3.	29	救急車(2B型 トヨタ)をJA共済から寄贈、川南分遣所に配置(更新)
	4.	1	職員3名採用、職員数83名となる。
	6.	19	宮崎県消防相互応援協定が改定される。
	7.	1	消防組合管理者に 川南町長 河野寛一氏就任
	9.	1	川南町通浜地区を「住宅防火モデル地区」に指定する。(460世帯)
12.	15		救助工作車(Ⅱ型 三菱)を購入、本署に配置(更新)
8.	4.	1	高規格救急車(トヨタ)を購入、本署に配置
	3.	18	小型ポンプ付水槽車(Ⅱ型 三菱)を購入、本署に配置
	3.	26	事務連絡車(トヨタ)を高鍋ロータリークラブから寄贈、本部に配置
	3.	31	稲田三千男消防長が退職し宮崎県警察本部に復職、職員数82名となる。
	4.	1	消防長に谷口数雄氏就任(宮崎県警察本部から出向)、職員数83名となる。
	4.	1	職員1名採用、職員数84名となる。
	4.	1	宮崎県防災行政無線(地上系)の運用開始
	5.	7	都農町国民健康保険病院にて第1回病院内研修を実施する。
	5.	15	救急救命士誕生(橋 重文消防士長)
	6.	28	指揮車を購入、本署に配置(更新)
	9.	13	第1回救急救命技術競技会開催
	10.	30	第1回消防職員委員会を開催
	10.	30	都農町国民健康保険病院にて第1回救急事例研修会を実施する。
	12.	4	資機材搬送車を購入、本署に配置
9.	1.	19	川南ライオンズクラブから心肺蘇生教育人体モデル1体寄贈
	3.	1	第1回消防フェアを高鍋町内にて開催
	4.	1	職員1名採用、職員数85名となる。
	5.	28	予防広報車を購入、本部に配置
	7.	1	消防組合管理者に 都農町長 河野通継氏就任
10.	1.	29	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入、都農分遣所に配置(更新)
	3.	2	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入、川南分遣所に配置(更新)
	3.	31	谷口数雄消防長が退職し、宮崎県警察本部に復職
	4.	1	消防長に清藤猛氏就任(宮崎県警察本部から出向)
11.	2.	17	高規格救急車(トヨタ)を購入、都農分遣所に配置
	3.	20	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入、新富分遣所に配置(更新)

11.	3.	26	事務連絡車(日産)を購入、本部に配置(更新)
	7.	1	消防組合管理者に 新富町長 太田直満氏就任
	11.	12	高規格救急車(トヨタ)を購入、新富分遣所に配置
12.	3.	13	清藤猛消防長が退職し、宮崎県警察本部に復職
	3.	14	消防長に金丸弘氏就任(宮崎県警察本部から出向)
	3.	23	予防査察車(ホンダ)を購入、本部に配置(更新)
	4.	1	分遣所長の階級を「消防司令」制とする。
	8.	22	消防庁舎等移転用地取得
	11.	9	第1回消防庁舎建設政務調査(長崎県央地域・春日大野城・柳川市) 第2回(11月20日、21日)
13.	5.	22	高鍋町において、宮崎県総合防災訓練が実施される。
	6.	28	職員定数条例を改正し、定数96名となる。
	7.	1	消防組合管理者に 高鍋町長 吉本光朗氏就任
14.	3.	17	金丸弘消防長が退職し宮崎県警察本部に復職、職員数84名となる。
	3.	18	消防長に小野学氏就任(宮崎県警察本部から出向)、職員数85名となる。
	3.	31	職員2名退職、職員数83名となる。
	4.	1	職員3名採用、職員数86名となる。
	8.	8	消防庁舎・防災センター、建設工事着工
	11.	28	拠点避難地・ヘリコプター離着陸場工事着工
15.	3.	10	高規格救急車(トヨタ)を購入、川南分遣所に配置(更新)
	3.	25	拠点避難地・ヘリコプター離着陸場完成
	3.	25	起震車(日野)を購入、本署に配置
	3.	31	職員2名退職、職員数84名となる。
	4.	1	職員3名採用、職員数87名となる。
	7.	1	消防組合管理者に 木城町長 田口晃史氏就任
	7.	31	消防庁舎・防災センター、建設工事完了
	11.	1	新庁舎へ業務移転する。(通信指令業務を除く。)
16.	3.	17	新庁舎へ全業務移転する。
	3.	30	職員4名退職、職員数83名となる。
	3.	31	小野学消防長が退職し宮崎県警察本部に復職、職員数82名となる。
	4.	1	消防長に山内義行消防監が就任
	4.	1	職員4名採用、職員数86名となる。
	5.	20	消防庁舎・防災センターの落成式を開催
	10.	1	宮崎県防災救急航空隊へ職員1名派遣(福屋光之郎士長)
17.	3.	30	職員3名退職、職員数83名となる。
	4.	1	職員5名採用、職員数88名となる。
	7.	1	消防組合管理者に川南町長 内野宮正英氏就任
	8.	31	正副管理者会議で旧消防庁舎の解体を決定
	9.	5	台風14号襲来
～	9.	6	防災センターに避難場所開設 252名収容

17.	9.	5	高岡町に応援協定に基づく救助隊派遣（浸水家屋から住民救助）
～	9.	6	水道施設破損に伴う給水活動（高鍋・新富・都農）
10.	20		日本赤十字社宮崎県支部から「献血功労賞」受賞
12.	21		第1回宮崎県消防救急無線広域化検討委員会が開催される。
18.	3.	23	元消防庁舎解体工事完了
			都農分遣所防水・塗装工事完了
	3.	31	職員5名退職、職員数83名となる。
	4.	1	職員5名採用、職員数88名となる。
	4.	1	宮崎県防災救急航空隊派遣職員、福屋光之郎士長から田牧利文士長に交代
	4.	14	総務省消防庁応急対策室長等来庁
	4.	19	防災センター来館者1万人達成セレモニー
	5.	15	救急出動で帰所中の都農救急車が大型トラックに追突され職員3名が負傷
	5.	25	正副管理者会議を開催、消防組合施設等整備10年計画案を提示する。
	5.	28	宮崎県総合防災訓練五ヶ瀬町・高千穂町等で開催、起震車展示
	8.	24	全国消防救助技術指導会（北海道）のロープ渡過競技に河野孝之士長出場、入賞
19.	3.	31	職員2名退職、職員数86名となる。
	4.	1	職員5名採用（うち1名は救急救命士）、職員数91名となる。
	5.	10	九州地区消防職員意見発表会で石原大消防士優秀賞（準優勝）受賞
20.	2.	29	日本自動車工業会から高規格救急車の寄贈、都農分遣所へ配置（更新）
	3.	7	自治体消防60周年を迎える。
	3.	31	職員4名退職、職員数87名となる。
20.	4.	1	消防組合管理者に都農町長 河野正和氏就任
	4.	1	職員4名採用、職員数91名となる。
	4.	1	宮崎県防災救急航空隊派遣職員、田牧利文士長から相馬英夫司令補に交代
	8.	29	全国消防救助技術指導会（北九州市）のロープ渡過競技に長友剛消防士出場、入賞
			ロープ応用登はん競技に則信雅博消防士・三輪尚正消防士出場、入賞
21.	3.	31	職員3名退職、職員数88名となる。
	4.	1	職員4名採用、職員数92名となる。
	5.	24	高鍋町及び木城町において、宮崎県総合防災訓練が実施される。
22.	2.	10	水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）を購入、本署に配置（更新）
	3.	5	小型動力ポンプ（4サイクル・B2級）購入、本署水槽車に積載（更新）
	3.	31	職員4名退職、職員数88名となる。
	4.	1	消防組合管理者に新富町長 土屋良文氏就任
	4.	1	職員6名採用（うち1名は救急救命士）、職員数94名となる。
	9.	1	位置情報通知システム（統合型）の運用開始。（消防庁の実証実験対象）
	10.	28	高規格救急車（日産）を購入（新規整備）、本署に配置し救急車2体制となる。
	11.	1	本署救急課が4係制となり、木城分遣所が廃止となる。
23.	3.	1	指令車（スズキ）を購入、本部に配置（更新）

23.	3.	14	東日本大震災の被災地(岩手県陸前高田市)へ緊急消防援助隊宮崎県隊として救急隊(瀬川幸一郎司令補、益田敬志士長、久家孝太消防士)を派遣
	3.	21	緊急消防援助隊宮崎県隊(救急隊)が任務を終え帰還
	3.	31	山内義行消防長以下職員9名退職、職員数85名となる。
	4.	1	消防長に村田龍男司令長が就任
	4.	1	新規職員6名、再任用職員3名を採用し、職員数94名となる。
	4.	1	宮崎県防災救急航空隊派遣職員、相馬英夫司令から石原大士長に交代
	6.	30	再任用職員1名退職、職員数93名となる。
	9.	6	事務連絡車(トヨタ)を購入、本部に配置(更新)
	11.	4	緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練のサテライト会場となり、被災地初動対応訓練及び先遣隊運用訓練等を実施する。
	12.	15	指揮支援車(トヨタ)を購入、本署に配置(更新)
	12.	20	高規格救急車(トヨタ)を購入、新富分遣所に配置(更新)
24.	2.	7	消防署新富分遣所の消防庁舎移転用地を取得
	3.	31	村田龍男消防長以下職員7名退職、職員数86名となる。
	4.	1	消防組合管理者に高鍋町長 小澤浩一氏就任
	4.	1	消防長に佐藤修三司令長が就任
	4.	1	新規職員5名(うち1名は救急救命士)、再任用職員3名を採用し、職員数94名となる。
	4.	1	宮崎県総務部危機管理局消防保安課へ職員1名派遣(瀬川幸一郎司令補)
	7.	31	軽貨物車(スズキ)を購入、本署に配置(新規)
	10.	22	事務連絡車(マツダ)を購入、本部に配置(更新)
	10.	30	指揮車(トヨタ)を購入、本署に配置(更新)
	12.	4	高規格救急車(トヨタ)を購入、川南分遣所に配置(更新)
25.	2.	25	宮崎県東児湯消防組合職員定数条例を改正し、定数102名となる。
	3.	13	高規格救急車(トヨタ)をJA共済より寄贈、本署に配置(更新)
	3.	31	職員8名退職、職員数86名となる。
	4.	1	新規職員6名(うち1名は救急救命士)、再任用1名を採用し、職員数93名となる。
	5.	10	第36回九州地区消防職員意見発表会(久留米市)で、梅原剛毅消防士努力賞を受賞
	6.	3	消防救急デジタル無線整備工事着工
	6.	24	住宅用火災警報器を東児湯地区危険物安全協会40周年事業として贈呈、管内高齢者住宅に配布する。
	8.	22	全国消防救助技術指導会(広島市)のはしご登はん競技に東順平消防士出場、入賞
	8.	22	消防署新富分遣所建設工事着工
	8.	26	水上バイク(ヤマハ)を購入、本署に配置(新規)
	10.	2	消防署川南・都農分遣所の消防庁舎移転用地を取得
	10.	31	資機材搬送車(いすゞ)を購入、本署に配置(更新)

25.	11.	25	消防団120年・自治体消防65周年記念大会に2名参加（東京都）
26.	2.	14	宮崎県女性防火クラブ連絡協議会設立
	3.	13	救助工作車（Ⅱ型 日野）を購入、本署に配置（更新）
	3.	28	消防署新富分遣所建設工事完了
	3.	31	佐藤修三消防長以下職員4名退職、職員数89名となる。
	4.	1	消防長に橋重文消防監が就任
	4.	1	新規職員10名（うち1名は救急救命士）を採用し、職員数99名となる。
	4.	1	宮崎県防災救急航空隊派遣職員、石原大司令補から山口真悟士長に交代
	4.	7	消防署新富分遣所新庁舎へ全業務移転
	8.	26	水上バイク（ヤマハ）を購入、本署に配置（新規）
	8.	27	軽積載車（ホンダ）を購入、本署に配置（新規）
27.	3.	20	消防署都農分遣所及び川南分遣所建設工事完了
	3.	25	消防署川南分遣所新庁舎へ全業務移転
	3.	26	消防署都農分遣所新庁舎へ全業務移転
	3.	27	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（Ⅱ型）購入、都農分遣所に配置（更新）
	3.	30	消防署都農分遣所及び川南分遣所新庁舎の落成式開催
	3.	31	職員4名退職、職員数95名となる。
	4.	1	宮崎県総務部危機管理局消防保安課から職員1名復職（瀬川幸一郎司令）
	4.	1	新規職員3名（うち救急救命士1名）、再任用職員2名を採用し、職員数100名となる。
	4.	3	消防救急デジタル無線運用開始（更新）
	4.	22	東児湯少年婦人防火委員会を東児湯少年婦人(女性)防火委員会に改め、四代目会長に通浜婦人防火クラブ会長是澤京子氏就任
	10.	28	通信指令システム運用開始（更新）
	12.	21	防火広報車（ニッサン）を購入、本部に配置（更新）
28.	3.	25	本部車庫増築
	3.	31	再任用職員1名退職、職員数99名となる。
	4.	1	消防組合管理者に木城町長 半渡英俊氏就任
	4.	1	新規職員2名（うち救急救命士1名）を採用し、職員数101名となる。
	4.	1	木城小こども消防クラブが結成される。（木城町）
	4.	14	熊本地震に緊急消防援助隊宮崎県大隊の構成隊として救急隊1隊3名（川南分遣所配置の高規格救急車）を第1次派遣隊(河野哲司令補、小倉啓太士長、黒木謙太消防士)として派遣
	4.	17	熊本地震に第2次派遣隊として3名(中城哲也士長、則信雅博士長、椎木翔太消防士)を派遣
	4.	20	熊本地震に第3次派遣隊として3名(石原大司令補、平山利幸士長、坂田蔵人消防士)を派遣
	4.	23	熊本地震に第4次派遣隊として3名(増田純司令補、甲斐博臣士長、河野光彦消防士)を派遣

28.	4.	26	緊急消防援助隊宮崎県大隊の活動が終了
	4.	26	熊本地震に派遣していた救急隊1隊3名（第4次派遣隊）が帰署
	6.	28	木城小こども消防クラブ発足式
	10.	16	高鍋町において、宮崎県総合防災訓練が実施される。
29.	3.	13	水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入、新富分遣所に配置(更新)
	3.	31	職員4名、再任用職員1名退職、職員数96名となる。
	4.	1	新規職員3名を採用し、職員数99名となる。
	4.	1	宮崎県防災救急航空隊派遣職員、山口真悟司令補から増田純司令補に交代
	5.	11	東児湯少年婦人(女性)防火委員会の五代目会長に木城小こども消防クラブ 会長眞鍋博氏就任
	6.	20	無人航空機(マルチコプター クアッドコプター型)を高鍋舞鶴ライオンズ クラブより寄贈、本部に配置(新規)
	7.	5	九州北部豪雨に緊急消防援助隊宮崎県大隊の構成隊として救急隊1隊3名 (川南分遣所配置の高規格救急車)を第1次派遣隊(小倉進一司令補、黒 木謙太士長、山口明信消防副士長)として派遣
	7.	8	九州北部豪雨に第2次派遣隊として3名(有村健司司令補、小坂宗大消防 士、小島脩平消防士)を派遣
	7.	11	緊急消防援助隊宮崎県大隊の活動が終了
	7.	11	九州北部豪雨に派遣していた救急隊1隊3名(第2次派遣隊)が帰署
	8.	23	全国消防救助技術指導会(仙台市)のロープブリッジ渡過競技に勉直希消防 士出場、入賞
30.	2.	9	高規格救急車(トヨタ)を購入、都農分遣所に配置(更新)
	3.	7	自治体消防70周年記念式典に1名参加(東京都)
	3.	26	13mブーム付多目的消防ポンプ自動車を購入、川南分遣所に配置(更新)
	3.	31	職員2名退職、職員数97名となる。
	4.	1	消防組合管理者に川南町長 日高昭彦氏就任
	4.	1	新規職員1名採用し、職員数98名となる。
31.	1.	28	消防功労者消防庁長官表彰(竿頭綬)を高鍋町消防団と合同受章
31.	3.	31	職員1名退職、職員数97名となる。
	4.	1	新規職員2名採用し、職員数99名となる。
令和			
	1.	5.	1 天皇(現上皇天皇)退位に伴い、年号が「令和」となる。